

保育科学生の室内ミニトマト簡易栽培による 食育アプローチに関する一考察

A Study of Food Education Approach Using Simple Indoor Cultivation of Cherry Tomatoes for University Students in the Department of Early Childhood Education

今井 景子
IMAI, Keiko

Abstract

Since the Basic Act on Food Education was enacted in 2005, food education activities have been implemented in early childhood education settings. Experiences such as cultivation and harvesting of plants and vegetables have become important food education activities in early childhood education. However, implementation of cultivation activities and other activities varies depending on the circumstances of each facility. We herein investigated the use of a simple cultivation kit as a method for enabling effective food education through the experience of cultivation even at facilities that do not have fields, etc. We held a food education event in which cherry tomatoes were cultivated indoors using the kit. A questionnaire survey was conducted to determine the effectiveness of this food education approach as well as expectations in early childhood education settings. The university students found the experience and sight of cherry tomato cultivation to be pleasant and enjoyable. Using “awareness” of the effects of cultivation activities on one’s own feelings as a measure for food education approaches, the present food education approach was found to be effective for the cultivator and second- to fourth-year students. First-year students had not yet reached “awareness”, indicating a low effectiveness, but they were not in a state of “no awareness”. The cultivator in particular was left with many impressions, which contributed to “awareness”. The university students thought that the present approach was effective as an early childhood education activity both in fields and gardens and at facilities that do not have fields or gardens. These findings suggest that, although small in scale, simple cultivation of cherry tomatoes is an effective food education approach.

Key words: Food education, Simple cultivation, Cultivation Activities, Awareness

はじめに

平成17年に食育基本法¹⁾が制定された。保育所では平成21年4月に施行された新たな「保育所保育指針」に従って「食育の推進」の項目が定められ食育の意義が明確化された²⁾。食育活動は保育計画の一部に組み込まれ重要な位置を占めている。また、平成20年3月には「幼稚園教育要領」の改訂も行われ、食育は「健康」の領域において記述が充実した³⁾。さらに平成26年には「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」にも食育の推進が盛り込まれている⁴⁾。平成27年4月から導入された「子ども・子育て支援新制度」により、子育て支援の場は従来より多彩な場で展開されることになった。食育という言葉の概念には広範囲な内容が含まれている。その中で裁

培活動は「自然への恩恵」「生産者への感謝の念」「豊かな味覚」などを育てる分野とされており⁵⁾「豊かな人間形成」「食に関する基礎の理解」に大切である。

これらを踏まえて保育の現場では様々な食育活動が展開されているが、食育の考え方は多岐にわたり、各園がこどもや家庭の実態、地域の実情などをもとに計画を立ててすすめている⁶⁾。その中で、植物や野菜の栽培・収穫体験なども重要な食育活動となっていて多数の園で採り入れられている⁷⁾が、小規模保育施設や認可外保育所などでは、栽培活動は各園の実情によりさまざまである。

そこで今回、小規模な栽培活動でも食育に関する効果が得られるか検証するために、ミニトマトの簡易栽培キットを用いて室内で栽培する活動を試みた。植物の世話をしたり栽培を見たりすることが学生たちの気持ちにどのように影響していくかアンケート調査を行い、食育に関する効果があるか検討した。

I. 方法

A. ミニトマトの栽培

2015年春学期にミニトマトのキットを用いた簡易栽培を行った。2年生保育実践演習ゼミの一環として学生が一人一鉢ずつ責任をもって栽培した。

1. 時期 2015年春学期(4月から7月末) 4月20日に種まき(品種名: レジナ)を行い発芽後は週に1回~2回程度の水やり、施肥、間引きなどの世話をした。同時に、気温、発育状況などの生長記録をつけた。
2. 場所 本学1号館と2号館をつなぐ2階ブリッジで行った。この場所は、水道・テーブル・椅子などがあり、学生が食事や自習ができるスペースになっているので、興味のある学生は自由に観察できると考え配置した。南向きのガラス窓際に鉢を一行に配置し発芽以降は日光が十分に当たるように配慮した。空調により気温は20℃から30℃前後に保たれ、室内栽培のため虫がつくことのない環境であった。目に付きやすい場所であるため、水分不足でしおれているときには担当者以外にも水遣りをするものが居り、手入れは行き届いていた。

3. 栽培キット 市販の3種類を用いた。(図1参照)

- ①植木鉢底面給水 聖新陶芸「フレッシュ ベジ ミニトマト GD-36206」

セット内容 透明カップ/インナーポット/給水ヒモ/培養土/シート/種

- ②撥水紙のコンテナ栽培 聖新陶芸 「ベジコンテナ プチトマト GD-33307」

セット内容 耐水性ペーパーコンテナ/ライナーポット/種/鉢底アミ/培養土

- ③ペットボトルによる水耕栽培 聖新陶芸「育てるグリーンペット ベジ ミニトマト GD-44501」

セット内容 培地フィルター/セラミックボール/種/肥料/計量スプーン

4. 栽培の様子 (図2参照)

レジナは、鑑賞・鉢栽培専用のミニトマトで草丈は15~20cm程度で支柱での支えなどは不必要な種類である⁸⁾。3個ずつ種を蒔き、草丈が10cm程度までは週に1度程度の水遣り、本葉が出たら草丈が5cmになるまでの間に間引きし、それぞれの鉢で1本になるように育てた。その後は根腐れをおこさないように注意しながら2~3日に1度程度容器に給水して水がなくなるようにした。室内の栽培のため害虫駆除は必要なく、病気にもかからなかった。①~③のいずれのキットも草丈20~30cmに育ち、6月上旬から花が咲き結実し、2~10個程度の実がなった。



①フレッシュベジ ②ベジコンテナ ③ペットベジ

図1 栽培キット



6月3日

7月29日

図2 栽培の様子

B. 食育イベント

1. 方法 2015年7月29日(水)、30日(木)の12時~12時40分、14時30分~16時にミニトマトを育てた同一の場所で行った。内容は、栽培されたミニトマトの現物展示、ミニトマトの生育の様子、ミニトマトに関するクイズ、ミニトマトの試食である。昼休み及び午後の空き時間を利用して学生が自由に参加できるようにした。試食は栽培したものとは別のミニトマトを用いて行い、実施日の気温が29℃を超えることから衛生状態を考慮して湯むきしたミニトマトを10%砂糖水に漬けて作ったコンポートを凍った状態で1人に1個ずつ提供した。

2. アンケート調査 (別紙参照)

質問紙法によるアンケート調査を行った。

- ①調査対象は、ミニトマトの簡易栽培実施者(栽培者)、食育イベント参加者、1年生「こどもの食と栄養(健康と食生活)」受講者である。

- ②調査項目は、(1)健康状態、BMIの認知度、食育への関心、植物栽培の志向 (2)ミニトマトの簡易栽培を見たか、栽培を見ての気持ちや興味を持った項目 (3)簡易栽培が保育の現場に有効と考えるか等の項目である。

- ③アンケート調査結果は、集計に基づき解析を行い、一部は差のt検定を行った。

- ④倫理的配慮 アンケートは無記名式で行い倫理面を考慮し、回答による成績への影響がないこと及び個人情報情報の遵守に関する説明をアンケート配布時に行った。

II. 結果および考察

1. アンケート回収率

156名に配布し100%の回答を得た。回答に不備のあった3名および授業・イベント両方で回答した11名の重複分を除いた142名を結果5までの分析対象とし、結果6以降の対象は質問内容に基づき99名とした。授業は男女合同なため分けずに集計した。項目により未記入や無効回答がある場合は欠損値として分析ごとに処理した。

2. 調査対象者の分類 (表1参照)

調査対象者は下記A～D群およびD'群に分けて解析した。

A群 栽培者 (14人) : 2年生保育実践演習ゼミ (今井ゼミ) の受講生で無作為に受講を割り振られた者。

B群 イベント参加2, 3, 4年 (29人) : 食育イベントに参加し、アンケートに回答した者。

C群 イベント参加1年生 (11人) : 「こどもの食と栄養 (健康と食生活)」受講者の中よりイベント参加者。

D群 1年生 (88人) : 「こどもの食と栄養 (健康と食生活)」受講者の中よりイベントに不参加の者。

D'群 (45人) : D群の中よりアンケート設問で「学内

でミニトマトの栽培を見たことがある」と回答した者。

調査対象者の分類に関して各群の人数に差があるが、それぞれの対象者の背景が異なるので、対象者の背景を優先し、それぞれの対象者間の傾向を比較し考察した。

3. 健康状態 (表2参照)

表2に学生の健康状態を示した。全体で約60%の学生が「良い」、約13%の者が「悪い」と答えた。群別にみると、A群, B群, C群は70%程度の者が「良い」と答えている。しかし、D群では「良い」が50%と少なかった。学生の中に健康状態が良くないと回答しているものがあることは気がかりである。

4. BMI認知度と食育への関心 (図3参照)

BMI (body mass index, ボディ・マス・インデックス) と食育に関して図3-a, bに示した。

C群, D群は、BMIについての講義は受けているが、食育に関する分野の授業は9月以降の秋学期に予定されている為受けていない。

①BMIの認知度 (図3-a参照)

BMIという言葉の認知度は図3-aに示すようにC群、D群の1年生は春学期の授業で学んでいるためか高かった。食育イベントに参加した2, 3, 4年生のB群と1年生のC群は、ほとんどの者が知っていた。

自分のBMI値についても、授業で学んだ1年生C, D群は良く覚えている。しかし、1年次に受講を終えた2, 3, 4

表1 対象者の学年と群

						(人)
群	学年	1	2	3	4	計
A群	栽培者	0	14	0	0	14
B群	イベント参加2、3、4年生	0	3	23	3	29
C群	イベント参加1年生	11	0	0	0	11
D群	授業受講者	88	0	0	0	88
D'群	授業受講者 質問非該当者を除く	45	0	0	0	45
	結果5まで 合計	99	17	23	3	142
	結果6から 合計	56	17	23	3	99

表2 健康状態

表2 健康状態				(人　　%)
学年	良い	普通	悪い	計
A群	11 (78.6)	2 (14.3)	1 (7.1)	14 (9.9)
B群	20 (69.0)	4 (13.8)	5 (17.2)	29 (20.4)
C群	8 (72.7)	1 (9.1)	2 (18.2)	11 (7.7)
D群	46 (52.3)	32 (36.4)	10 (11.4)	88 (62.0)
計	85 (59.9)	39 (27.5)	18 (12.7)	142 (100.0)

年生のB群では、知っていた者は約57%であったが、A群では30%に満たなかった。

BMIは日本人の食事摂取基準(2015年版)では、エネルギー摂取量及び消費量のバランス(エネルギー収支バランス)の維持を示す指標として採用されている⁹⁾。定義としてBMIについて学ぶだけでなく、自分の体の状態を理解するためにもBMI値を把握しておくことは必要と考えられる。

②食育という言葉の認知度および食育への関心(図3-b参照)

食育への関心はB群では93%、C群では100%と高かった。特にC群では、まだ授業で学んでいないので食育の内容はわからないものの、関心が高いことがわかった。

食育に関する認知度は「言葉も意味も知っている」学生は全体で53.5%だった。A群57.1%、B群75.9%で、食育イベントに参加したB群が高かった。

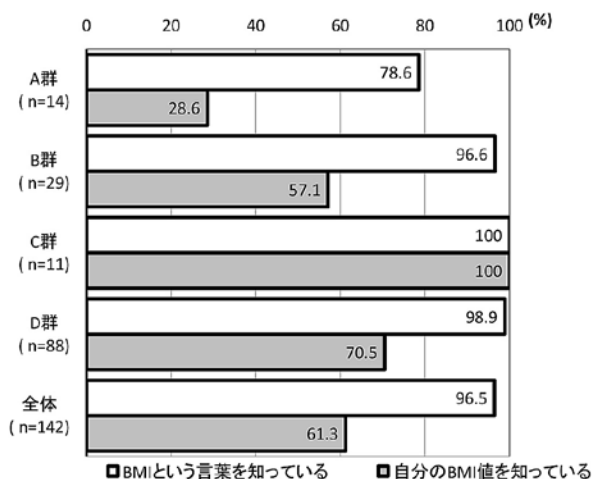


図3-a BMIの認知度

内閣府の調査では、食育の「言葉も意味も知っている」が46.9%である¹⁰⁾。今回調査したA, B, C群の学生はそれより高い割合で認知しており、授業で学んでいないD群でも認知度は近いものであった。内閣府の大学生を対象にした調査¹¹⁾では食育に関心があるとする者の割合は62.3%であり、これと比較しても食育の意識は高かった。B群およびC群は、食育の意識が高い事がイベントへの参加に繋がったとも考えられる。

5. 植物栽培の志向(図4参照)

植物を育てることは好きかについて尋ねた。結果を図4に示した。おおよそ半数近いものが「好き」と答えているがA群は他の3群より「好き」と答えた割合が低く、「好きではない」と答えた割合も高かった。栽培を担当したA群の中には、好きではない人も参加させることになったが、栽培中に枯らすことなく育てることができたことは意義があると考えられる。

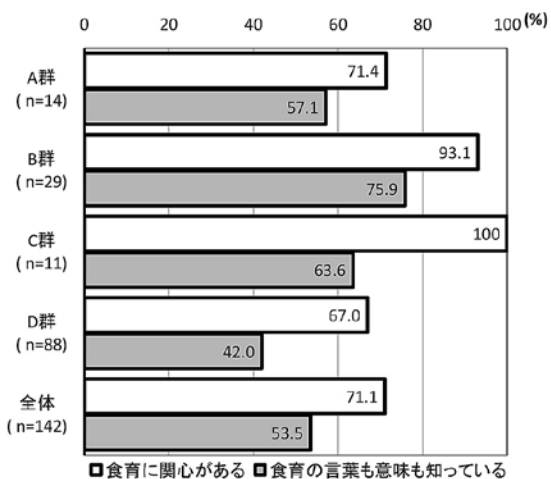


図3-b 食育への関心

図3 BMI認知度および食育への関心

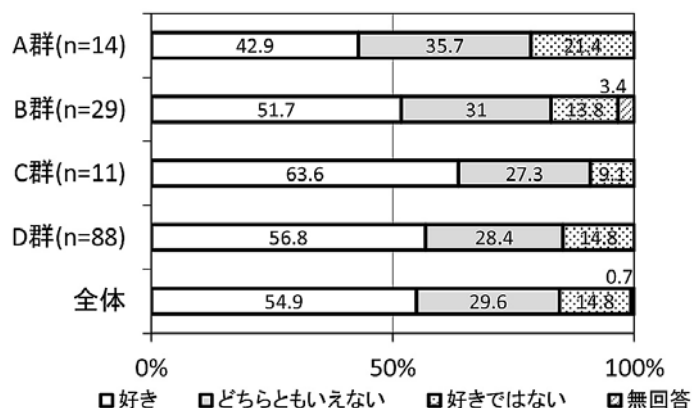


図4 植物を育てることは好きか

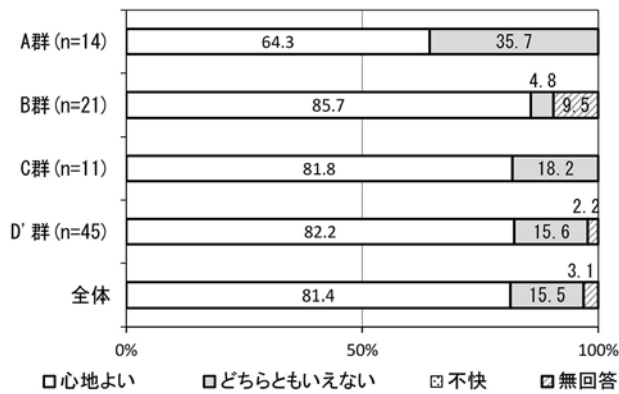


図5 栽培を見てどう思ったか

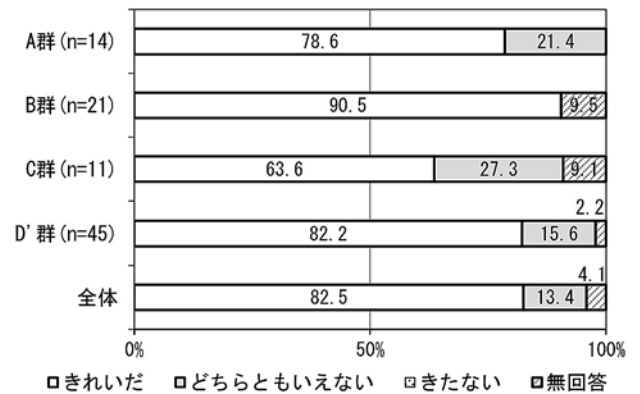


図6 きれいだと感じたか

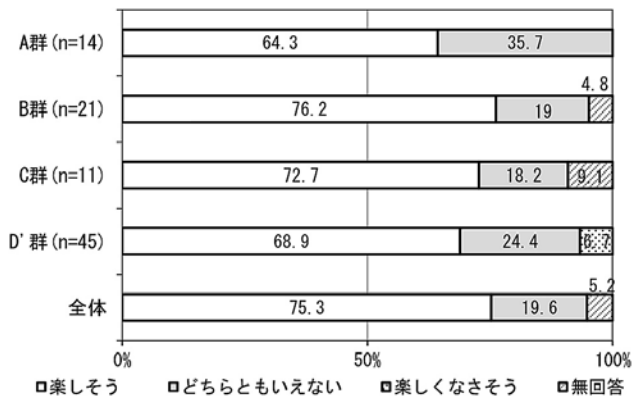


図7 栽培を見て楽しそうと思ったか

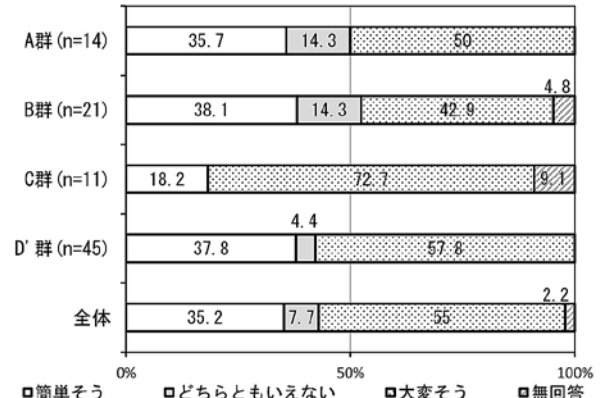


図8 手入れは簡単そうか

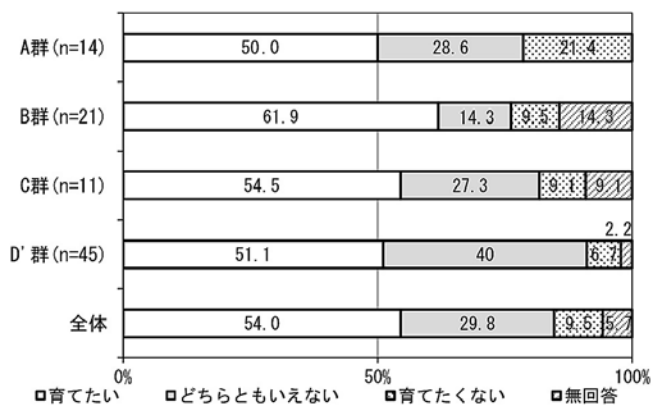


図9 自分も育ててみたいか

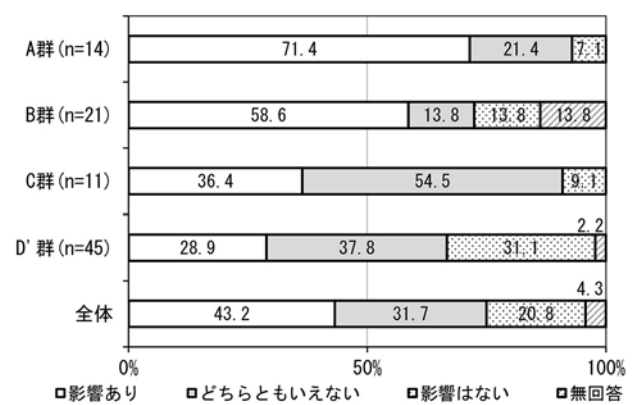


図10 見て気持ちに影響はあったか

6. 栽培を見て感じた気持ちや意欲 (図5, 6, 7, 8, 9参照)

ミニトマトの栽培を見たことがある学生に、栽培を見た気持ち、手入れについておよび栽培の意欲について尋ねた。項目は「心地よい」と思ったか・「きれいだと思ったか」・「栽培を見て楽しそう」と思ったか・「(手入れは)簡単そう」か・「自分も育ててみたいか」を質問項目とした。

①「栽培を見てどう思ったか」については図5に示した。B群、C群、D群は80%以上の者が栽培を見ることを心地よく感じていた。一方、A群は、心地よいと感じた者は65%ほどで30%を超える者がどちらともいえないであった。栽培担当者は単純に心地よくは思えない要因があったと考えられる。

②「きれいだと感じたか」(図6参照)では、きれいだと感じた者はB群が一番多く90%でありC群では60%台に過ぎなかった。室内の栽培のため病気や虫食いはなく枯れてもいなかったが、根元付近に気根¹²⁾が出ていたため、きれいとは思わなかったと考えられる。イベントに出てミニトマトの栽培を観察した正直な感想なので大切にしなければならない。A群は、栽培の途中で気根についての説明を受けて知っていたので、きたないと感じた者はいなかったと考えられる。

③「栽培を見て楽しそうと思ったか」(図7参照)は、どの群でも60%以上が楽しそうと答えた。授業の合間や通りがかりに継続的に生長の様子が見られることは、楽しみになっていたと考えられる。近寄って見られる場所にあったので、いつ芽が出るかを気にしたり、花が咲きしほむ様子を見てがっかりしたり、その後小さな実がなっているのを見つけて安堵する様子等が見受けられた。

④「手入れは簡単そうか」(図8参照)は、A群は半数が大変そうと答えた。他群でも大変そうと思うものが多かった。週に1、2度キットを手に取り、水や液肥を与えることが栽培者にとって大変と感じたのであろう。屋外や菜園での植物栽培はもっと困難であると考えられる。

⑤「自分も育ててみたいか」(図9参照)では、B群では60%程が自分も育ててみたいと感じていたが、他の群では50%程であった。一方、育てたくないと思う者は、B、C、D群では10%に達しないのに対し、A群では21%と多かった。A群は植物栽培は好きかの問いで低値を示していたが、実際に育てても育てたい気持ちにはなり難かった。B群は食育に関する興味があり、イベントに参加した食育に関する意識が高いグループであるので自らも栽培をしたいという意識が高いものと考えられる。学校の窓辺で特別な作業はなく植物を育てるさまを見ることは、自分も育ててみたいという栽培

意欲を沸かせることに有効であると考えられる。

7. 栽培を行う(見る)ことは気持ちへの影響はあったか。

①「植物栽培を行う(見る)ことは気持ちに影響があったか」を尋ねた結果を図10に示した。影響の有無は群別に大きく違い、2年生のA群は70%、2,3,4年生であるB群は60%近くの者が影響があったと答えているのに対し、1年生であるC群とD群は約30%程度の者だけが影響があったとしている。AおよびB群である2,3,4年生は保育者養成のための授業を多く履修しているため、それぞれの経験から自分の気持ちに何らかの影響があったと認識し考えることにより、多く気づきが得られたと考えられる。C群では、50%を超える者がどちらでもないを選択し、強く影響があったわけではないが、何かしらの印象が残っていると考えられる。D群の30%の者が影響はないと答えた。ただ植物を見るのではなく育っていく過程を知ることや興味を持つことなど自らに働きかけをすることが多くの気づきを得ることにつながるのではないかと考えられる。

② 影響を受けた内容 (図11参照)

自分の気持ちへの影響があった内容について図11に示した。12項目の中から複数選択で回答を得た。全体では「栽培の興味・楽しみ」が50%を超えて最も多かった。次いで「植物への興味」「トマトへの興味」「生長の楽しみ」など直接目に見える項目が多く選択された。群ごとの比較ではA群では、「生長の楽しみ」や「植物への愛情」が他群より多く、栽培にかかわることは気持ちにも影響を与えたことがわかった。更に「世話をする意欲」「世話をする責任感」も他群と比べて影響が大きかった。

③ 印象に残った項目 (図12参照)

発育の様子、色、におい等の項目から複数回答で印象に残ったことを選択した結果を図12に示した。全体で最も印象に残ったと考えられることは、「実がなる様子」だった。次いで「芽の様子」、「実の色」および「葉・茎の様子」が全体の20%の者の印象に残っている。ミニトマトの種まきから発芽、発育結実する過程はどれも学生の印象に残るものであった。花の色の印象は全体で見るとあまりなく、実がなり色に変化していく様子が印象に残ったことがわかった。身近な場所に置いてあったにもかかわらず、B、C、D群は手に取って見なかったせいかわり、芽・葉・花のにおいが印象に残る学生は少なかった。それに対して栽培者であるA群は、日ごろから直接手に触れる機会が多かったために多くのことに興味を持ち、「花の様子」「実、芽・葉のにおい」「世話の様子」などが印象に残っている。手入れの際には、葉のにおいをかいでトマトのにおいを感

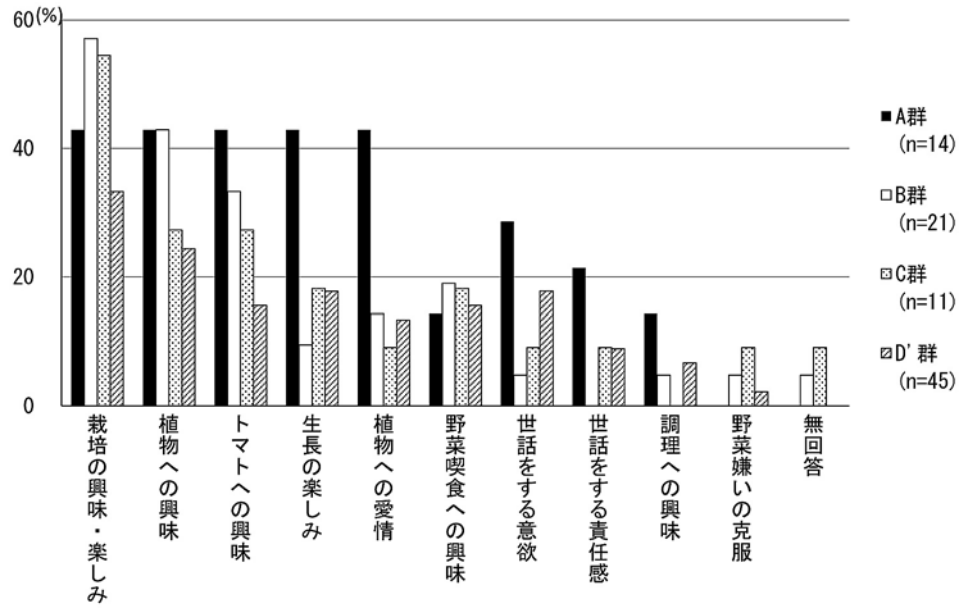


図 11 影響を受けた内容

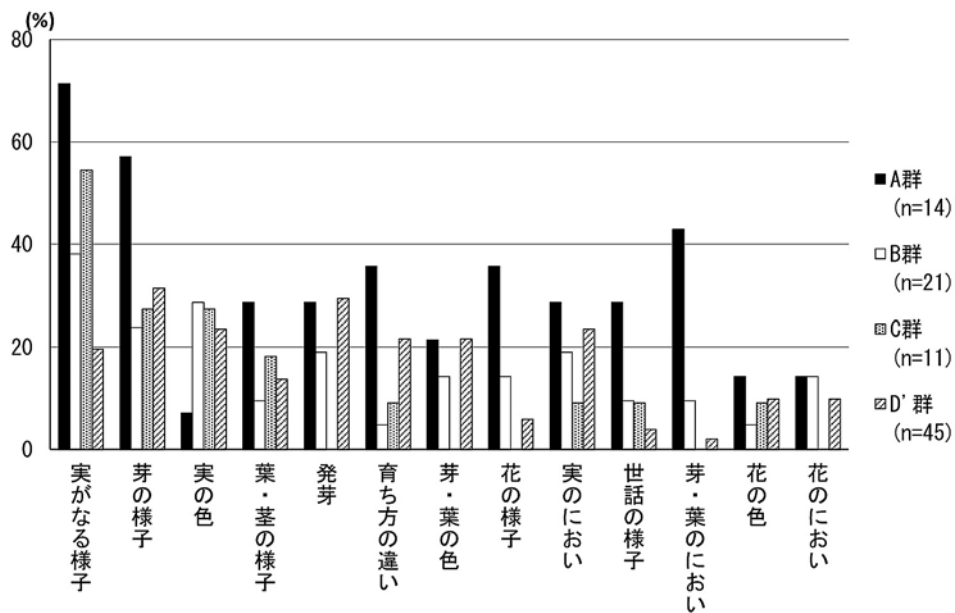


図 12 印象に残った項目

じるなど実際に手に取らないとわからない経験をしている。花のにおいも嗅いでいるが、特に印象には残らなかったようである。また、記録をとるために良く観察するので茎にも微細な毛が生えているなど細かいことに気づくことも多くあった。複数並んでいるものなかで、良く育っているものや水遣りの足りていないものなどを注意深く見る目が養われている。B、C群で印象に残っているのは実がなる様子でありいつ赤くなるかも楽しみのひとつになっていたようである。次の

で印象に残っていたのは、「芽の様子」であった。栽培キットが展示されていつ芽が出るか楽しみに見ていたことがうかがえる。芽が出た後は、育っていく様子を何となく見ていただけで特に注意を払って見ておらず、花が咲いた様子などは印象に残っていなかった。

栽培を見るだけでも印象に残り気づきは多く得られるが、A群のように栽培に参加する方が、直接視覚、嗅覚、触覚が刺激されてより多くの気づきが得られると考えられる。

8. こどもに影響を与えると思う内容 (図13参照)

簡易栽培が、こどもに影響を与えると思う内容を図13に示した。A群は他群より多くの影響を与えると思っている。こどもに栽培の楽しみや植物に対する興味、愛情に対して影響を与えることができると考えた一方、植物を育てる責任感は伝わるが、植物の世話をする意欲は伝わりにくいとなっている。これは学生が経験した上の事なので、世話をする意欲をこどもに伝えるにはどうすれば良いかを模索する機会になると考えられる。

9. 食育アプローチの判定 (表3、図14参照)

食育の栽培活動は「自然への恩恵」、「生産者への感謝の念」「豊かな味覚」などを育てる分野とされており「豊かな人間形成」・「食に関する基礎的理解」の理念に果たす役割は大きい。ミニトマトの栽培活動でこれらの項目への食育アプローチ判定の一つの方法として、アンケート調査の平均選択回答項目数から判定する方法を試みた。図11、12、13の質問に対する複数回答の一人当たり選択回答項目数が多ければ効果が高いと判定した。

①「影響を受けた内容」②「印象に残った項目」③「子どもに影響を与えると思う内容」の項目に対して各群の選択回答項目数の平均値を表3に示した。

①「どのような面で影響がありましたか」の項目では、A群が3.0項目、他群は2項目程度であった。有意差はないものの、栽培者A群は世話の際に接する機会が多いことから、より多くのことに影響を受けたと考えられ、体験することは大切であると考えられる。

②「トマトの簡易栽培を見て何が印象に残りましたか」の項目では、図14に示した通りA群は平均4.5項目、B、C、D'群は2項目ほどであり、差のt検定の結果A群はB、C、D'群に対して優位に多かったので食育の効果はあったと考えられる。

③「子どもに影響を与えると思う内容」については、全体で4.3項目、A群が5.2項目、B群4.4項目、C群は4.1項目、D'群は4.5項目であった。「自分への影響項目数」で自分に対しては2項目程度の影響しかなかったのに対し、こどもへの影響については2倍以上影響があると答えており栽培活動への期待が大きいことが推測される。

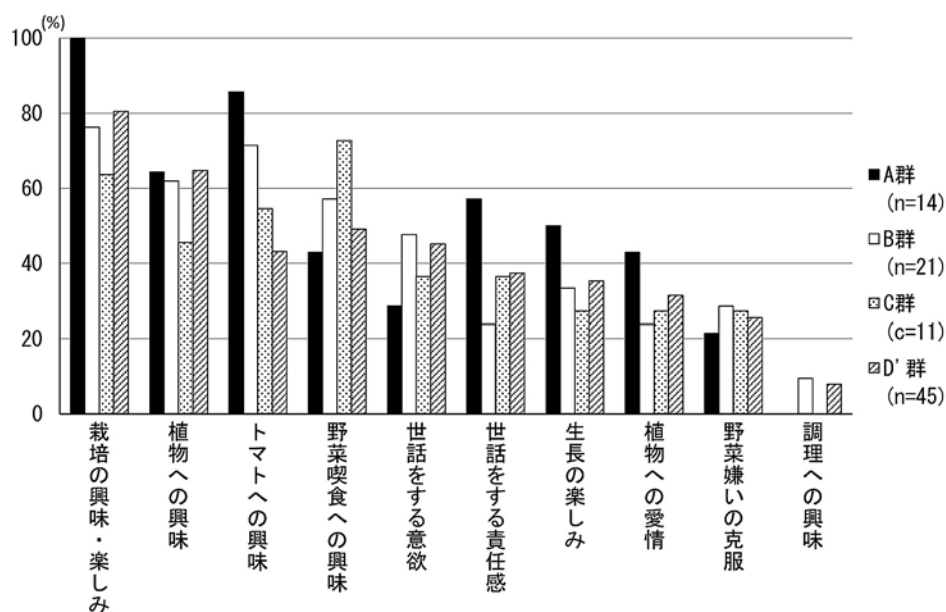


図13 子どもに影響を与えると思う内容

表3 平均選択回答項目数

設問	A群	B群	C群	D'群
①どのような面で影響がありましたか。	3.0	2.1	2.1	2.3
②トマトの簡易栽培を見て何が印象に残りましたか	4.5	2.4	2.0	2.4
③ミニトマトの簡易栽培は、保育では子どもの心情にどのような影響があると思いますか。	5.2	4.4	4.1	4.5

*平均選択回答項目数は、項目数を人数で割ったもの

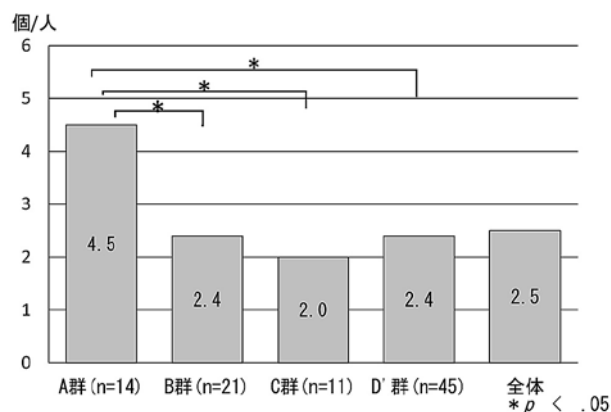


図 14 栽培を見て受けた印象選択数

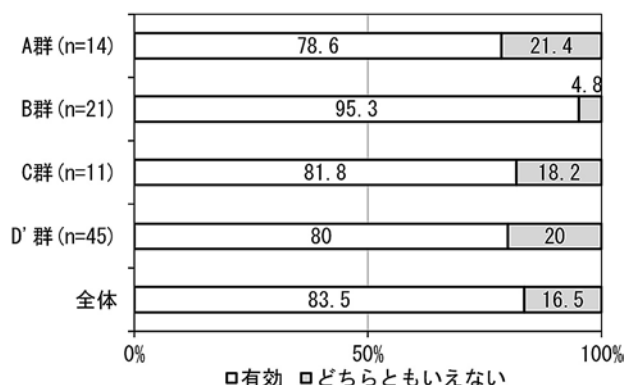


図 15 畑で行う保育活動と比べて有効か

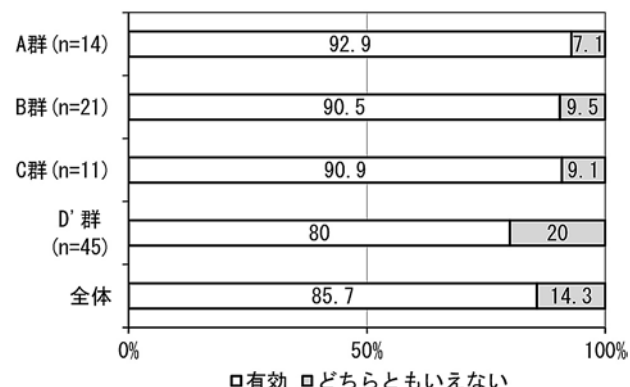


図 16 園庭や畑を持たない施設には有効か

10. 簡易栽培を行う環境による有効性の検討 (図 15、16 参照)

図15に簡易栽培が畑等で行う保育活動と比較して有効かについて質問した結果を示した。A群以外では、80%以上の学生が「有効」と答えた。特にB群では95%と有効性を認めている。小規模な栽培でも間近で育っていく様子を見ることは、こどもにとって意義があることと感じていた。食育イベントに参加したB群とC群で差が出たのは、こどもにかかわることを多く学んできた上級生と1年生の差であると考えられる。A群は「どちらともいえない」と答えた者が多く簡易栽培と園庭などで行う活動と比較して規模などに物足りなさを感じたのかもしれない。

図16に園庭や畑を持たない施設には有効かを質問した結果を示した。A群は、93%の者が「有効」と答えた。B、C群では90%、D'群は、畑で行う活動と同程度の80%の有効性を感じていた。

この他、体調による影響についての解析は今後に回すが、次世代を担う子ども達の保育・指導を行う学生に対して、「子どもの食と栄養」の教科で健康の維持・推進の問題をしっかりと伝えて行きたい。

Ⅲ. まとめ

「食育」には様々な概念があるが、豊かな人間関係（知育・徳育・体育の基礎）の中での自然の恩恵等への感謝、環境への調和は、幼児期の人間形成に重要である。食育としての栽培活動の実施は施設の状況によりさまざまである。

今回2年生の保育実践演習ゼミ授業の一環として、畑などを使わない身近な場での栽培体験として、室内で簡易栽培キットを用いて行う栽培で、食育のアプローチ効果が得られるかについて検討した。調査はミニトマトの栽培、食育イベント、アンケート調査を通じて行った。アンケートの結果、ミニトマトの栽培やその様子を観察することで学生は心地よく楽しく感じる事が認められた。また栽培活動を見て、印象や影響があったという気づきの項目を食育のアプローチの判定方法として分析を試みた結果、栽培者であった2年生のA群、イベント参加の2, 3, 4年生のB群の平均選択回答項目数が多く、食育のアプローチ効果があると認められた。1年生はまだ気づきに対する選択項目数は少ないが、気づかない状態ではなかった。一方、栽培に携わっていたA群では多くのこ

とが印象に残り、気づきを高めていると推察できる。ミニトマトの簡易栽培は小規模ながら食育アプローチに有効であると示唆された。

今後、更に栽培意欲や興味を持たせる方法、身近に感じる栽培展示や場所の工夫などを行うことで、食育活動の観点から一層栽培の意義は増すと推測し更なる研究方法を検討したい。

引用文献

- 1) 内閣府：食育基本法、官報（2005）
- 2) 厚生労働省：保育所保育指針（平成20年3月）
- 3) 文部科学省：幼稚園教育要領（平成20年3月）
- 4) 内閣府・文部科学省・厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成26年）
- 5) 内閣府：平成26年版食育白書、159頁（2014）
- 6) 小川雄二：保育園・幼稚園ですすめる食育の理論と実践、芽ばえ社、21-22頁（2009）
- 7) 足立恵子、中山玲子：幼児の食育推進に関する一考察—幼稚園と保育所の給食の観点から—、京都女子大学食物学会誌、61巻、21-27頁（2006）
- 8) サカタのタネ：ミニトマト「レジナ」（鉢植え用）<http://www.sakataseed.co.jp/product/search/code00920171.html>（2015年11月15日）
- 9) 菱田明、佐々木敏監修：日本人の食事摂取基準（2015年版）、第一出版、4頁（2014）
- 10) 内閣府：食育に関する意識調査について、http://www8.cao.go.jp/syokuiku/more/research/h27/pdf/houkoku_2.pdf（2015年11月15日）
- 11) 内閣府：大学生の食に関する実態・意識調査報告書、<http://www8.cao.go.jp/syokuiku/more/research/pdf/syoku-report.pdf>（2015年11月15日）
- 12) 森俊人編：トマトの絵本、社団法人農山漁村文化協会、21-22頁（1997）

別紙 アンケート用紙

校内の簡易トマト栽培に関するアンケート（該当する番号に○をつけてください）
 学生（1,2,3,4）年 職員 男・女 年齢（10代 20代 30代 40代 50代 60代以上）
 必ず全項目にお答えください

I. 以下の質問に對してあてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- I-1 あなたは自分の健康状態について、どのようにお感じですか。
 ① とても良い ② まあまあ良い ③ どちらともいえない ④ あまり良くない ⑤ 良くない
- I-2 BMI(ボディマスインデックス)という言葉、意味を知っていますか。
 ① 言葉も意味も知っている ② 言葉は知っているが意味は知らない ③ 言葉も意味も知らない
- I-3 自分のBMI(ボディマスインデックス)値を知っていますか。
 ① 現在のBMI値を知っている ② 知らない
- I-4 あなたは「食育」という言葉を知っていますか。
 ① 言葉も意味も知っている ② 言葉は知っているが意味は知らない ③ 言葉も意味も知らない

- I-5 あなたは「食育」に関心がありますか。
 ① 関心がある ② どちらかといえば関心がある ③ どちらかと言えば関心がない
 ④ 関心がない ⑤ わからない
- I-6 トマト、ミニトマトを食べることは好きですか。
 ① 好き ② どちらかといえば好き ③ 好きでも嫌いでもない ④ どちらかと言えば嫌い ⑤ 嫌いな
 ⑥ とても好き ⑦ まあまあ好き ⑧ どちらともいえない ⑨ あまり好きではない ⑩ 好きではない
- I-7 植物を育てることは好きですか。
 ① 好き ② どちらかといえば好き ③ 好きでも嫌いでもない ④ どちらかと言えば嫌い ⑤ 嫌いな
 ⑥ とても好き ⑦ まあまあ好き ⑧ どちらともいえない ⑨ あまり好きではない ⑩ 好きではない

- I-8 今までに何か植物を育てたことはありますか。
 ① 育てたことがあります ② 育てたことがありません ③ 育てたことではない
 ④ 育てたことがあり、現在も育てている ⑤ 育てたことがある ⑥ 育てたことではない
- II-1 あなたは、学内でミニトマトの簡易栽培を行っていたことを知っていますか。
 a. 知っている (はい、いいえ)
 b. 見たことがある (ある、ない)

I II-1で(はい、ある)と答えた人にお尋ねします

- II-2 トマトの簡易栽培を見てどう思いましたか
 a. ① 心地よい ② 不快 ③ どちらともいえない

- b. ① きれいだった ② きたないと思った ③ どちらともいえない
 c. ① 栽培を見て楽しそう ② 楽しくなさそう ③ どちらともいえない
 d. (手入れは) ① 簡単そう ② 大変そう ③ どちらともいえない
 e. (手入れは) ① 楽しそう ② 楽しくなさそう ③ どちらともいえない
 f. (手入れは) ① 簡単そう ② 難しそう ③ どちらともいえない
 g. (栽培) ① 自分も育てみたい ② 自分は育てたくない ③ どちらともいえない

II-3 トマトの簡易栽培を見て何が印象に残りましたか。(該当するものにいくつでも○をつけてください)
 a. 発芽, b. 芽の様子, c. 芽が伸びる様子, d. 葉の様子, e. 茎の様子, f. 花の様子,
 g. 実がなる様子, h. 育ち方の違い, i. 芽の色, j. 葉の色, k. 花の色, l. 実の色,
 m. 芽のにおい, n. 葉のにおい, o. 花のにおい, p. 実のにおい, q. 芽に触った感じ,
 r. 茎に触った感じ, s. 花に触った感じ, t. 実に触った感じ, u. 世話の様子,
 v その他()

II-4 トマトの簡易栽培を行う(見る)ことは、あなたの気持ちに影響がありましたか。
 ① とてもあった ② まあまああった ③ どちらともいえない ④ あまり影響はない ⑤ 影響はない

II-5 どのような面で影響がありましたか。(該当するものにいくつでも○をつけてください)
 a. トマトに対する興味, b. 植物に対する興味, c. 栽培に対する興味, d. 調理に対する興味,
 e. 野菜を食べることへの興味, f. 植物の世話をする意欲, g. 植物の世話をする責任感,
 h. 栽培に対する楽しみ, i. 生長に対する苦痛, j. 生長をみることの楽しみ, k. 植物に対する
 愛情, l. 野菜栽培の克服, m. その他()

II-6 ミニトマトの簡易栽培は、保育園等の畑で行う保育活動と比べてどう思いますか。
 ① とても有効である ② どちらかという有効 ③ どちらともいえない ④ あまり有効ではない
 ⑤ 有効ではない

II-7 ミニトマトの簡易栽培は、保育室など園庭や畑を持たない施設での保育活動にはどう思
 いますか。
 ① とても有効である ② どちらかという有効 ③ どちらともいえない ④ あまり有効ではない
 ⑤ 有効ではない

II-8 ミニトマトの簡易栽培は、保育では子どもの心情にどのような影響があると思いますか。
 a. トマトに対する興味, b. 植物に対する興味, c. 栽培に対する興味, d. 調理に対する興味,
 e. 野菜を食べることへの興味, f. 植物の世話をする意欲, g. 植物の世話をする責任感,
 h. 栽培に対する楽しみ, i. 生長に対する苦痛, j. 生長をみることの楽しみ, k. 植物に対する
 愛情, l. 野菜栽培の克服, m. その他()

— ご協力ありがとうございました —